平成２８年度　武蔵野市立第一中学校　学校評価報告書

校　長　　若槻　善隆

評価→A：十分に達成されている　B：概ね達成されている　C：達成がやや不十分である　D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	確かな学力の育成 基礎基本の定着	・「基礎的な学力は身についている」と回答した生徒は全学年平均で87%、保護者は77%である。学年が進むにつれ肯定的な回答が増えていることから、以下の実践が効果を上げていると考える。 (ⅰ)電子黒板などの「ICT機器の活用」、既習学習内容の「振り返り」及び「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業 (ⅱ)数学の少人数習熟度別指導、英語の少人数・習熟度別指導 (ⅲ) 授業とリンクした学習支援教室、TT、TAによる基礎基本の定着と発展的な学習内容の充実の補佐 今後は、13%の基礎学力に不安のある生徒に対してのフォローが課題である。	A	・「分かりやすい」と回答している90%の生徒の中に基礎基本の定着が必要な生徒を取り込むために、毎時間「本時の目標」を明確に示し、生徒に学習の見通しをもたせ、「わかる喜び」を味わわせるようにする。 ・指導と評価の一体化を更に目指した授業実践を行う。そのために、年間指導計画に沿って何をどのように学習するかを生徒に説明していく。 ・上記に加え、左記の(ⅰ)から(ⅲ)を継続し発展させながら授業実践をしていく。一方、教師の授業力を更に高めるために、昨年同様に授業者全員が研究授業に取り組む。次年度は、研修委員会から提案される授業目標に更に沿った研究授業を展開し、より多くの授業参観者からのアドバイスを受けることによって力量を更に身につける。	○全学年平均で87%が「基礎基本が身についている」と回答している。 しかし、基礎学力に不安を感じている生徒に対しての取り組みが必要である。 ○ポスターセッションでは、生徒たちが良く準備し生き生きと発表している姿が印象的であった。 ○日々の授業やポスターセッション等で、思考力・判断力・表現力の育成」をねらいとし教育実践をしていることは理解した。 ○ポスターセッションでの異学年交流は、より高い思考力や発言力の向上を促すものである。今後は地域との関わりも大切。
	言語活動の充実を通した思考力・判断力・表現力の育成	・言語活動をベースとした「一分間スピーチやポスターセッション」を教育活動の中心に据え実践している。総合的な学習の時間においても発達段階に応じたポスターセッションに工夫を加え思考力・判断力・表現力の育成を図っている。ポスターセッションにおいてその準備に多くの時間を費やしてしまうことや、セッションが深まりにくいテーマ設定など、次年度のポスターセッションのあり方を検討していく必要がある。	A	・学校図書室の放課後開放日を水曜日を除く週4日間に増やし、「思考力、判断力、表現力」を育む地盤を構築した。次年度もこの取り組みを継続させるために、ポスターセッションにおいてICT機器を活用するなどの工夫を行い、より効果的な発表と議論の場を設定できるようにしていく。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **○生徒にとって「わかる授業」を次年度も実践しつつ、基礎基本の定着が必要な生徒及び発展的な学習に取り組む生徒等に対して授業者のみならず地域人材を活用し多様な学び方を実践する。** **○次期学習指導要領を見据え、主体的、対話的で深い学びを通して、これまでの研究成果を踏まえ、全教育活動にわたり思考力・判断力・表現力の育成をしていく。**				
生活指導・進路指導・特別活動	基本的生活習慣の確立 人権尊重の精神の育成	・基本的生活習慣に関する学校評価アンケートの結果は、保護者の上位評価が96%、生徒の肯定的評価は90%で昨年度より向上している。 ・人権尊重の啓発を含め、本校のいじめ防止基本方針に基づき校内体制を整え関係諸機関と連携しながら対応している。しかし、「先生やカウンセラーがいつでも生徒の悩みを受け止めて相談にのっている」に対し肯定的な回答は生徒60%、保護者68%であった。生徒の悩み等への相談体制の一層の充実が求められる。	B	・基本的生活習慣を確立するために、地域の方々と協力をもとに、教員が率先垂範して挨拶、時間遵守を実行していく。今後は生徒の自主的活動となるよう生徒会や部活動を中心に挨拶運動の枠を広げていく。 ・いじめ防止、生徒の個別相談等の効果を上げるために、各機関との連携をより強固にする。そのために、特別支援教育コーディネーターを軸とし、S.C.やS.S.W.及び市派遣相談員を中心とした教育相談体制を生活指導部を拠点としてつくる。平成28年度より発行を始めたスクールカウンセラー通信を継続させ、生徒・保護者により安心して学校生活ができるよう基盤を整える。	○学校に来たとき、あいさつをしてくれる生徒が多い。 ○道徳的実践力の更なる向上をめざし、今後もいじめのを防止し、落ち着いた学校生活ができるよう継続した指導を願う。 ○第一学年でも生き方指導は必要と思われる。保護者の進学指導への期待は高い。生き方指導についても積極的に生徒、保護者に内容をつたえ、幅の広い進路指導の充実を期待する。 ○地域との連携を意識した防災教育は、学校に対し大いに期待するものである。中学生の防災意識の高まりが、実際の場面で生かされるよう期待している。 ○地域防災訓練を通して、中学生が地域において大きな戦力であることを再認識した。 ○次年度は学校公開日に保護者向けのスクールカウンセラーによる講演会を実施してはどうか。
	進路指導の充実	「進路指導の充実」では、生徒は70%、保護者は76%が肯定的な回答を寄せている。第二学年85%、第三学年は91%と高い数値を示している。しかし、第一学年は35%と低い数値である。進路指導は生き方指導であることを鑑み、第一学年からの適切な指導が課題である。	A	・キャリヤ教育の視点にたって第一学年から年間を通して指導していく。そのためには綿密な年間計画を作成し、年度初めに生徒や保護者に示す。また、他教科や特別活動との関連をもたせ、適宜指導する計画を吟味し作成する。	
	防災教育の充実	第２学年と地域防災会との地域防災訓練を実施し、地域の方々と生徒、教職員の防災意識の向上と交流を図ることができた。また、市の防災教育拠点校として、関係諸機関の支援を得ながら避難訓練等の充実に努めた。将来地域で貢献できる人となる意識をもたせることが課題である。	A	地域で貢献できる人材となる意識を涵養するために、自助・共助の実践力の育成に重点を置き、学校での避難訓練及び地域防災訓練に参加させるとともに、地域の方から講話をいただくなど、地域に対する意識をより高めていくようにしていく。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **○スクールカウンセラーの更なる活用を行い、生活指導部を軸として組織的な対応を行い、生徒の内面から訴えられるような教育相談体制を整備する。** **○生き方指導を含めた進路指導の充実を図るため三年間を見通した計画に基づき、生徒一人一人に応じた適切な指導及び保護者へ向けての説明を行う。** **○地域防災訓練をより充実させ、地域の方とともに地域を支えていく意識を涵養する。**				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
地域連携	地域から信頼される学校づくりの推進	・年5回土曜日に学校公開を行った。その他、学校行事や学年行事も公開した。事前に学校公開等のお知らせを配布し、参加を呼び掛けた。アンケートから保護者や地域の学校に対する考え方を知ることができ、信頼される学校づくりに努めることができた。学校公開週間の来校者数を更に増やしていくことが課題である。	A	・ 次年度も土曜日の学校公開を年５回継続して行い、教育活動を直接知ってもらう。特に次年度は、ICT機器を有効活用している授業やアクティブ・ラーニングをとりいれた 授業を参観してもらう。 ・地域に開かれた学校づくりを推進する。そのために、HPにて学校行事や学校行事の案内を掲載し、学区の小学校の保護者等には案内を送付する。	○「地域との結びつき」の評価が高い。しかし、生徒の積極的参加にやや課題がある。 地域清掃活動などボランティアへの関心を高める必要があるのではないだろうか。 ○小中連携して児童・生徒が互いの行事に参加していくことは望ましいと思う。 ○第二学年の中学生と地域の方が一緒に防災訓練に参加した。地域と連携した防災訓練を通して緊急時の実践力が高まり、中学生の役割を自覚することができるので、今後も合同での防災教育の検討を願う。 ○部活のコーチなどとして、地域の人材発掘のために協力していきたい。 ○今後とも伝統を大切にしてほしい。
	小中連携の推進	・「小中９年間を見通した指導とスムーズな連携の在り方」をテーマに、小中合同研修会を２回開催した。互いの授業を参観しあうとともに、児童・生徒の様子を知ることで、9年間を見通した学習・生活のあり方について理解を深めることができた。 ・小学生対象の体験授業や部活動体験を行うことで児童や保護者の一中に対する関心や理解を高めることができた。 ・合同研修会以外に連携を深める機会をもてるようにしたい。	B	・ 次年度から「小中連携教育協力校」として、学校行事や開かれた学校づくり協議会における連携のあり方を検討していく予定である。 ・更に通じ合える一中フェスタになることを目標とし、小学生の参加について関係小学校、青少協と連携しながら検討していく。	
	地域貢献	・「地域との結びつき」については、生徒89%、保護者97%、「地域活動協力」では生徒68%、保護者88%が肯定的な回答をしている。青少協やコミュニティセンターの行事や防災訓練等に参加してきたが、今後は更に多くの生徒が地域行事に参加することが課題である。 ・一中フェスタでは生徒実行委員会と地域代表や地域コーディネーターとが連携した活動を推進した。生徒が地域との関わりの重要性を実感した。一中フェスタについては、やってもらってあたりまえの意識ではなく、地域に感謝する意識をさらにもたせたい。	A	・ 青少協やコミュニティーセンターとの連携を図り、ＰＴＡの協力を得ながら、多くの生徒が地域の行事に協力・参加するように促す。 ・一中フェスタの内容を再検討し充実させる。そのために、地域コーディネーターの協力を仰ぎながら準備段階の早いうちから生徒に参加させる。 ・生徒だけではなく、教員にも積極的に地域の行事に参加し、地域行事に関わる必要性を意識させる。	
	地域とともに歩む学校	・学校教育の現場を直接見ていただくことが理解への第一歩と考え実践してきた。具体的には授業公開、道徳授業地区公開講座、進路学習、総合的な学習の時間等についても案内を配布し呼びかけてきた。地域人材の活用も図り保護者、地域の方々に一中の教育活動に貢献していただいている。今後、地域コーディネータの有効活用についてさらに検討していく。	A	・本年度から地域コーディネーターの配置があった。一中フェスタの講師の人材情報収集のみならず、職場訪問先について等、地域の人材活用の視点からも相談する機会を増やしていく。地域コーディネーターに任せきりにならないよう、学校の主体性も大切にしていきたい。 ・地域あっての生徒、学校の成長である。案内はできるだけ早く配布するが、学校だよりの地域配布など、広報活動もさらに活発にしていく。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **○「地域との結びつき」を維持し、自ら「地域活動へ協力する」生徒の育成をする。教員も率先して地域行事に参加するよう、意識づけていく。**				
学校運営	教職員の協力体制の充実	「教職員の協力」について保護者から高評価をいただいている。今後とも、学校経営方針の具現化に向け地道に教職員一同協力し合い教育活動に勤しんでいくことが課題である。	B	・組織的に課題解決に取り組むために中・長期的視野にたった人材育成を図っていく。 ・教育活動への参画意識をより高めるために、それぞれの役割を意識し、お互いに相談できる体制を整える。	○教職員が協力して教育活動に当たってほしい。対応や改善が図られるものと期待する。 ○学校からの情報発信は、教育活動を理解する上で大切。今後も続けてほしい。
	学校情報の充実	学校ホームページを適宜更新し、情報を提供してきた。保護者は92%が肯定的な回答をしている。しかし、生徒からは71%となっている。	B	・今後も必要な情報を吟味し、ホームページにて学校情報の発信をしていく。 ・各種たより（学校・学年・分掌）では、生徒にとっても分かりやすい内容にするとともに発行回数などの充実に努める。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **○学校教育目標の具現化に向け職員が組織的に教育活動委を遂行するために協力体制を確立する。** **○ホームページやプリントによる各種たよりをもちいた情報発信を積極的に行う。**				